



最高参事
齋藤 興哉

わが誇りの白陵

白陵の古典担当、校長として
合わせて十五年間勤め、四月か
らは最高参事として週二日の勤
務に変わりました。この間、同
窓会の皆さんには深いご理解と
多大なご支援をいただきました
こと、心より感謝をいたしてお
ります。

校長として白陵で私にできた
のは、中学を学年5クラスにし
たことぐらいです。私にとって
大きかったのは、生徒に教える
こと、教えてそれを吸収しても
らえるという、教師として一番
の生き甲斐を白陵の生活で存分
に体験させてもらったことで
す。これまでの生活でもそれに
近いことはありましたが、その
充実感は、「私はこの歳で、教
え方が上達したのでは」と錯覚
するほどのものでした。本当に
ありがたく思っています。

そしてこの生徒の有り様は、
卒業生が皆白陵を好きになって
大学生、社会人になっていくの
と無関係ではありません。直接
的にはいい友人がいたというこ
とが大きいのでしようが、白陵
の環境、日々の学習、先生方の
姿、そしてそれに対応する白陵
生の素直さ、生真面目さがそう

いうものを形作っていると思
います。

この間、大学時代の富山の友
人と話していたら、「齋藤は、
よく故郷の自慢をしていたな
」と言われました。景色のことや
食べ物の旨さ等についてです。
そんな記憶は全くなかったの
ですが、卒業生の白陵好きに思
いつて、似たところがあるの
なとうれしくなりました。自分
の依って立つ好きなものがある
ことは、その人を支える何より
のものだと、私は思っています。

今の私は、郷里山形ととも
に、本県での教師としての生
活、とりわけ白陵での十五年の
経験がかけがえのないものとし
て自分を支えているのを実感し
ています。



ご挨拶



校長
宮崎 陽太郎

同窓会の皆様におかれまして
は、日頃から本学園の教育活動
に対し、温かい御支援、御協力
をいただき、深く感謝申し上げ
ます。

八年前、いよいよ学園が成熟
していくための基礎が築けた矢
先、それを引つ張ってきた吉田
校長が急逝されました。この
逆境において、陣頭指揮し、今
の隆盛に導いたのが齋藤校長で
した。三十四年前の三木学園長
の急逝による白陵の危機を思い
出しますが、危機において敢然と
立ち向かうことで白陵は進化し
てきたといえます。

このたび、齋藤校長から校長
職を辞職したいと申し出があ
り、三木理事長は慰留に努めま
したのですが、ご意志が固く、か
ないませんでした。誠に残念な
ことでしたが、それでも最高参事
として残っていた多くのことには
なり、私が校長職を引き継ぐこ
とになりました。もとより浅学非
才の身でありますが、職務の重
要性を深く認識し、その全うに
全力を注いでいく所存でありま
すので、どうぞよろしくお願
い申し上げます。

昨今、自分さえよければよい

という保護主義的な陣営が生ま
れる風潮があります。このよう
な中であって、エリート教育を
標榜する白陵が、自分さえよ
ければよいという者を輩出する
とすれば、それは世の害悪でしか
ありません。ここに、「人間と
しての自己の存在を自覚し、生
きていたことの証を残して生涯
を終われ」という学園長の本学
園の理念を表す言葉が、単なる
理想ではなく、必要とされる現
実として響いてきます。私たち
にとつての最大の励みは、まさ
にその言葉を体現するように頑
張っておられる同窓生の方々の
消息を聞くときです。

昔の白陵を経験された方から
は、今は楽しそうではないね、と
言われることもあり。しかし、
言われることもありません。しか
し、自己の確立への道はいつ
の世でも、その困難の度合いは同
じです。通学途上の白陵生を見
かけて、何か話すきっかけなど
があれば、励ましの声などをか
けていただければありがたいで
す。それはききと、今まで頑
張ってこられたご自身への励ま
しにもなると思います。

皆様のご来校をお待ちしてい
ます。朝礼の時など今や一一五
〇名を超える生徒の重量を支え
ながら、白陵の来し方に思いを
馳せ、未来に向けて力強く押し
返してくれる「校舎前庭」と共
に。



副会長
服部 博明
(10期生)

還暦同窓会
〜我が良き友よ〜

少し前の話になるが昨年十月二十九日、私は十期生として、姫路で開催された「還暦同窓会」に参加した。卒業生約一七〇名のうち、日本全国や海外から五十四名が駆けつけ、お迎えした中学時代の担任の久留宮和俊先生はじめ中高の恩師七名を加えた総勢六十一名で久しぶりの再会を懐かしむとともに、授業中での出来事、先生方とのエピソード、寝台列車での卒業旅行、体育祭でのデコ作り等昔話を花を咲かせた。

四十数年前の當時を思い起こすと、バンカラな校風とともに全てが懐かしいが、タイムマシンでもう一度と言われたら「????」。その原因は、やっぱり三木省吾園長の椅子の切れ端を用いた授業や藤田家将先生の母校天理大学での春休みと夏休みの地獄の柔道合宿等々か。特に藤田先生には、団体勝ち抜き戦で強豪相手に何とか引分けた結果優勝、褒められるものと思っていたら「なぜ勝ちにいかない。」と逆にこっぴどく叱られた。今思えば二人とも徹底的に鍛

え上げる指導方針だったが、何か一つ壁を作ってはそれを乗り越えさせ、一緒に達成感を感じ合う愛情溢れる教育者だったと思う。

話は同窓会に戻るが、あの頃「厳しさ」を共に乗り越えた経験、四十数年を経た現在においても当時と変わらぬ「絆」で結ばれているのだろう。ただただ残念なのは、卒業してからもお互いの家を行き来していた田中宏一君や同じ柔道部で鍛えられた黒川晋君、前川豊行君らが既に鬼籍に入ってしまったこと。彼らのことを想うと、かまやつひろしの「我が良き友よ」の一節、下駄をならして奴がくる、腰に手ぬぐいぶらさげて、学生服にしみこんだ、男の臭いがやってくる、ああ夢よ良き友よ、おまえ今頃どの空の下で、俺とおなじあの星見つめて何想う? を見ついつい口ずさんでしまふ。

この貴重な時を共に過ごした旧友・恩師と今後訪れる卒業五十年目、六十年目の節目も変わらず、再会出来ることを楽しみにしている。最後にになりましたが、この四月より柔道部の一学年下の宮崎陽太郎先生が生え抜きとして初めて白陵の校長に就任されましたことを大変喜ばしく、心強く思います。私もほぼ時を同じくして拝命した白陵会副会長として、育てて頂いた母校の躍進の為に少しでもお役に立てるよう頑張つて参りたいと思います。



副会長
町田 直隆
(15期生)

副会長就任のご挨拶

平成二十九年七月八日の白陵会役員総会において副会長に選任されました十五期生の町田直隆です。よろしくお願いいたします。

天野会長の「Young OB・OGを引き込み、活躍の場を提供することにより、新たな同窓会活動を行い、もって白陵会の更なる活性化を図り、より魅力ある組織にする」、「白陵の様々な卒業生団体との交流・連係を進め、同窓の輪を拡げることにより、母校への更なる貢献を行う」という構想実現のため、微力ながら自分の役割を果たそうと考えています。

私事ですが、一昨年、二十五年余り務めた白陵柔道部OB・OG会の幹事長職を十四学年若くは浜田賢太郎君に引き継ぎました。徐々に世代交代していかなくては組織が硬直化してしまう等様々な弊害を避けようとの考えからでした。白陵会も白陵を中心とする諸団体もそんな時期にきているのでしょうか。と、ここで、この原稿を書くにあたり、自分がいつから白陵会に関わっているのかを調べるため「Alma Mater 白陵」

のバックナンバーを遡って見てみました。(白陵会ホームページで創刊号からの会報がご覧いただけます!) 結果、昭和六十三年三月十日発行の第6号で、昭和六十一年頃常任幹事に就任したことが判りました。いや、や本当に時が経つのは速いものですね。この約三十年間、広報委員会、研レ委員会、五十周年記念総会実行委員会等々で多くの先輩後輩と楽しく活動させていただきました。本当に私にとつて得がたい貴重な思い出と経験になりました。

生徒の頃、あんなに嫌だった学校に、卒業後もこんなに永く関わってきたのは、後輩を大切にしてくださる先輩方の優しさ、やはり言葉では言い表し難い白陵の魅力によるものだと思います。また、すべての白陵会の役員の方々も、白陵が好きだ! ますます発展して欲しい! という白陵愛をもって白陵会活動に参画されています。卒業生諸氏のそんな白陵愛を育み、また受けとめられる会運営に少しでも貢献できればと考えると、ろでありますので、どうかご理解、ご協力、そしてご参画をよろしくお願い申し上げます。





教頭
高見 繁統

ご挨拶

清秋の候、卒業生の皆様方におかれましてはますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

挨拶が遅くなりましたが、今年度より教頭になりました高見繁統です。平素は母校のためにご支援、ご協力を賜りありがとうございます。

この夏、関東では記録的な季節外れの長雨、四十年ぶりだそうです。十年前、私は大学二年生。続いた雨がやっと上がった練習時、不甲斐無いプレーから罰としてエンドレスのランニングを科せられました。その時、甲子園では「バンビ」の愛称で騒がれた一年生エース坂本を擁した愛知代表の東邦高校と、兵庫代表の東洋大姫路高校の決勝戦が始まりました。終わりの見えないランニング、もうろうとする意識の中「兵庫が優勝したから終わっていいぞ」と声が掛かり、延長の末、東洋大姫路高校が安井のサヨナラホームランで勝利したことを教えてもらいました。四十年経っても、雨がずっとこの日が思い出されます。

今夏の甲子園、何かと話題の多かった第九十九回全国高校野球選手権大会は花咲徳栄高校の、埼玉県勢初の優勝で幕を閉じました。その予選、兵庫大会に甲子園を目指し挑みましたが、二回戦で千種高校に敗れました。この試合をもって私の甲子園への挑戦、監督生活をピリオドを打ち、第一線から身を引くこととなりました。監督として関わった三十三年間の予選成績は、甲子園の足元はおるか、箸にも

棒にもかからない、十勝三十三敗です。しかし、地元の特権で兵庫大会を二度も甲子園で戦い、そして勝利も味合うことが出来ました。観衆はわずかですが、試合終了後ホームプレートに整列し、校歌を歌いながらスコアボードに掲揚される校旗を眺めることが出来ました。大きく格別のバックスクリーン、勝利を示すスコアボードの最上段に校旗が掲揚されるのは全国大会と一緒。しっかりと脳裏に焼き付き、忘れることの出来ないワンシーンです。

監督を始めた当初、大会は生徒会長が応援団長となり生徒会を中心にした全校応援でした。期末考査期間中から生徒会は早期に応援練習。その姿を見ていると、「勝たなくては」との思いがあふれ、部員ともどもプレッシャーを感じずにはいられませんでした。新聞でも十三連敗が話題になるほど、気持ちと結果は噛み合わず、やっと勝てたのは十五連敗を免れた七年目の夏でした。その時は全校応援もなくなり、希望者だけの応援になっていました。

昨今、野球以外の大会で「〇〇甲子園」とやたら甲子園が話題になりましたが、野球部員が叶わなかった「甲子園出場」を、高校二年生二チームが予選を勝ち抜き「数学甲子園二〇一七」の全国大会へと駒を進めました。運動部では、全国高校総体柔道男子八十一kg級で藤本君が五位に入賞しました。このように運動部、文化部問わずいろんな方面で「白陵ここにあり」との気概を見せ活躍してくる生徒が増えています。ここには全てを紹介できないほどです。このような生徒たちに、私の野球では叶わなかった夢を託し、各分野の甲子園で活躍してくれることを願っています。

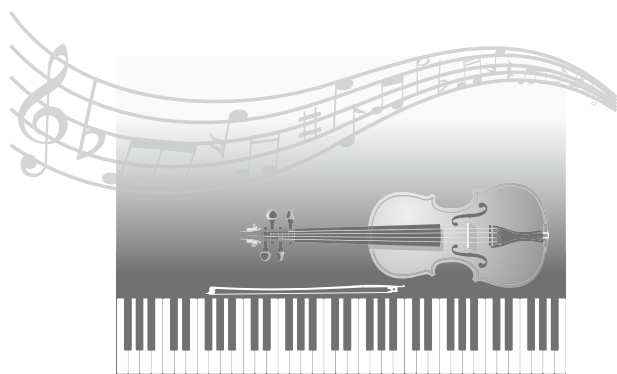
卒業生の皆様には今後ともご支援ご協力を賜りますとともに、各方面におかれましてはますます活躍され、在校生に力強い勇気を与えて下さいませようよろしくお願いたします。

白陵音楽祭

(Hakuryo Music Festival)

久保 博彦 (十四期生)

八九五二。何を表す数字なのかお分かりになりますか。今春挙行された第五十二回卒業式まで白陵高等学校を卒業した者の数です。皆さんもこの八九五二人のうちの一人であり、皆さんがお持ちの卒業証書には、一から八九五二までの数字のどれかが書かれているはずですよ。例えば、三期生の天野会長なら二七九番、一期生の宮崎校長は一六六〇番、十四期生の私は二〇七二番という風です。今年古稀を迎えた一期生から今春卒業したばかりの五十二期生まで九〇〇人に届かんとする卒業生には多士済々という形容がまさに当てはまり、国内外のありとあらゆる方面で広く活躍しています。その中には Muse の女神の魅力に抗いがたく、音楽の道へと進んだ者も少なくありません。来る十一月八日(水)に、二十三期生太田圭亮君(バイオリン)、三十四期生石原麗奈さん(ジャズピアノ)、四二期生鯛中卓也君(ピアノ)、四十五期生西影星二君(声楽)が神戸文化ホール大ホールに一堂に会し、在校生の有志も加えて、白陵音楽祭と銘打って、白陵生による白陵生の為の音楽のフェスティバル(祭典)を催します。開場時間は午後一時、開演時間は午後一時三十分です。同窓生で鑑賞を希望される方も公開する予定です。白陵会のホームページ上に天野会長よりのご案内と、申込みのフォームをアップいたします。そのフォームを使って申し込んでください。座席数に限りがあります。ご希望に添えない場合はご容赦願います。



加古川白陵会のあゆみ

— 発足20年を前に —

2017年6月3日、19回目の加古川白陵会が開催されました。総会後の恒例の講演では、33期生で加古川市観光振興課の辰巳公哉さんに、最近力の入ってきた加古川市の観光戦略についてお話をいただきました。そして、懇親会では、かつめしに次ぐ加古川名物をと開発された恵幸川鍋に舌鼓を打ちました。



この加古川白陵会は1999年に、2期生の湖中さん、板垣（故人）さんたちの呼びかけでエリア同窓会として発足しました。確か、加古川市内に在住もしくは勤務地が存在する白陵高校卒業生の数が300人を超えたことが呼びかけのきっかけだったと記憶しています。亡くなられた板垣先輩の行きつけの居酒屋で準備会と称する飲み会が幾度となくありました。

運営幹事を仰せつかり（無理やりさせられ？）、気がつけば来年で20回の節目を迎えます。「単に飲み会をするのではなく、白陵らしく勉強を絡めよう」が、当時の世話人の共通意識でした。以来、別表の通り、時に固く、時に柔らかく、主に加古川にゆかりのある人を中心に講演やら、コンサートやらを企画してきました。

	年月日	講師	テーマ
1	1999/ 4/29		設立総会
2	2000/ 5/27	戸田勝身	本気になれ
3	2001/ 7/14	玉岡かおる	トランジット世代のブレイク・タイム
4	2002/10/ 5	田代恭也	加古川でオペラ演奏活動を通じて思うこと
5	2003/ 8/24	樽本庄一	今の加古川
6	2004/ 7/11	田村広一	高砂を語る
7	2005/ 4/28	北口寛	明石を語る
8	2006/ 4/28	川崎志保	熟年離婚に備えるーその傾向と対策ー
9	2007/ 5/26	吉田実盛	「かこがわ学」「かこがわ検定」秘話
10	2008/ 9/ 5	大鳥裕士	東播磨県民局のビジョン

	年月日	講師	テーマ
11	2009/ 6/13	コトリ木	ライブコンサート
12	2010/ 8/15	松下俊文	映画「パチャママ」鑑賞&トークショー
13	2011/ 4/30	Kako-Style 編集委員	編集委員は見たーかこスタイル編集秘話ー
14	2012/ 6/23	スパイシー八木	あささばよもやま話
15	2013/ 7/14	古部真由美	関西避難者の現状
16	2014/10/17	岡田泰裕	みんなでつくろうワクワクする加古川
17	2015/ 6/27	吉田正巳	若年性痴呆症の妻とともに生きる
18	2016/ 4/30	La Fuente	フラメンコライブ
19	2017/ 6/ 3	辰巳公哉	観光でまちはこう変わる

東京白陵高校同窓会

平成29年6月24日(土)

「第十回東京白陵高校同窓会に参加させていただいて」

十二期生 山口 透 (白陵高校教諭)

六月二十四日土曜日、十回目の東京白陵高校同窓会が、品川のプリンスホテルで盛大に開催されました。十回目という節目の同窓会であり、白陵高校の新しい体制の門出を祝う楽しい企画が盛りだくさん、参加された九十名の同窓生の方々の心に残る同窓会だったと思います。

午後一時、いよいよ開会です。司会は五十期の佐藤さん、五十一期の増田君という若さあふれるコンビです。田代東京白陵协会会长、天野白陵会長のなごやかなご挨拶の後、斎藤前校長のご発声で歓談へと移ります。立食形式なので、年代や職種も多種多様な方々と自由に話せるところが魅力です。関東の地で活躍されている方々とお話をさせていただいて、皆さんに共通するのは、若さと心開かれた進取の気性ではないかと感じ入りました。

懐かしい母校の近況ビデオを鑑賞したあとは、十周年特別企画である「豪華景品付き白陵クイズ」、恒例の「ビンゴ抽選会」と楽しい企画が目白押しでした。景品は同窓生の方々が提供してくださった珍しい品々です。しばらく歓談すると、「白陵

寮歌」斉唱の時間がやってきました。宮崎新校長の朗々たる序詞の吟詠に続き会場一体となつて寮歌を歌うと、名残惜しくも十五期の滝川実行委員長の中締めの言葉でした。全員で記念写真を撮り、二時間の楽しい会はお開きとなりました。楽しい思い出を与えてくださった東京白陵会の皆様方、本当にありがとうございました。

最後に、東京白陵会事務局からのお願いです。関東圏の同窓生の把握に苦勞されているため、東京での白陵の同窓会の案内をご希望の方は以下の東京白陵会事務局メールアドレスにご連絡下さい。
info@tokyo-hakuryo.com



大学入試試験合格者数

国公立大学					
大学名	29年	28年	27年	26年	25年
東京大学	11	16	22	14	18
京都大学	28	15	13	20	21
大阪大学	14	19	30	25	20
神戸大学	12	17	15	16	19
東京工業大学	2	3	2	3	1
一橋大学	2	1	1	2	1
岡山大学	10	11	10	8	6
その他	85	74	83	80	83
合格者計	164	156	176	168	169
内医学部医学科計	52	38	37	50	37

私立・海外大学					
大学名	29年	28年	27年	26年	25年
早稲田大学	24	26	21	23	26
慶應義塾大学	21	18	15	23	15
東京理大	15	10	18	10	3
関西学院大学	20	9	24	22	20
関西大学	10	5	12	9	23
同志社大学	40	29	38	27	50
立命館大学	20	17	16	23	16
その他	90	66	101	69	74
合格者計	240	180	245	206	227
内医学部医学科計	46	32	39	21	21

※ 国公立大学集計に準大学を含む

白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	3	天野 泰文	常任幹事(研シ)	6	大崎 章快	常任幹事(総務)	33	北尾由美子	常任幹事(総務)	49	立石裕之輔
副会長	2	湖中 明憲	"(総務)	7	萩本 義郎	"(総務)	34	上垣 孝俊	"(総務)	49	橋本 端季
"	6	上田 喜裕	"(総務)	8	前川 裕司	"(総務)	34	牧野 琢丸	"(総務)	50	池上 学歩
"	10	服部 博明	"(総務)	9	手井 幸男	"(総務)	35	阪本 覚	"(総務)	50	津田 彩花
"	15	町田 直隆	"(研シ)	10	加藤 雅宣	"(研シ)	36	近藤 理恵	"(総務)	51	佐々木優一
理事(研シ)	3	神吉 裕資	"(総務)	12	西庵 利彦	"(HP)	36	杉岡 央基	"(総務)	51	笹久保茉奈
"(会計・総務)	4	岸本 和男	"(研シ副委員長)	13	矢野 善人	"(総務)	37	岸上真紀子	"(総務)	52	稲垣 大翔
"(HP委員長)	6	長野総一郎	"(総務)	14	片山 安孝	"(HP)	37	亀山 信生	"(総務)	52	富木 琴乃
"(総務)	8	黒川 仁	"(総務)	14	竹中 邦夫	"(総務)	38	上野 紘之	校内幹事(広報)	1	芳木 健憲
"(研シ)	9	村角 伸一	"(総務)	16	田中 正一	"(総務)	38	堀 素史	"(総務)	3	黒田 洋
"(研シ委員長)	10	吉田 達哉	"(総務)	18	秋田 直樹	"(総務)	38	住吉 寛紀	"(総務)	6	福井 孝昌
"(研シ)	10	下村 康夫	"(総務)	19	牛尾 英樹	"(総務)	39	堂國久美子	"(総務)	11	小紫 一貴
"(広報副委員長)	11	志方 正彦	"(総務)	21	河合 恵介	"(総務)	39	根木 厚	"(総務)	12	畔上 昇
"(総務)	11	来栖 昌朗	"(研シ)	22	野津 康弘	"(総務)	40	赤澤 剛	"(総務)	12	山口 透
"(広報委員長)	13	水田 堅	"(研シ)	23	中里 寛	"(総務)	40	廣江 祥子	"(総務)	12	中村 大吾
"(総務)	13	飯島 義雄	"(総務)	24	奥本 光廣	"(総務)	41	山本 梨加	"(総務)	14	久保 博彦
"(総務)	15	福永 安洋	"(総務)	24	藤原 省悟	"(総務)	41	脇田 直人	"(総務)	15	村上 幸生
"(総務委員長)	17	岡野 清和	"(総務)	25	多根 正明	"(総務)	42	賀川 拓哉	"(広報)	15	西 善弘
"(会計・HP)	19	尾上 尚樹	"(HP)	26	大西 康記	"(HP)	42	宮崎はる香	"(総務)	37	神尾 祐輔
"(総務)	20	石井 秀武	"(総務)	27	山田 将義	"(総務)	43	野瀬 彩弥	"(総務)	39	石岡 知久
"(総務)	23	譜久山 剛	"(総務)	28	柿本 晴彦	"(総務)	43	八杉 佳奈	"(総務)	39	清水美沙子
"(研シ)	26	萩原 唯典	"(総務)	28	上山 奉伯	"(総務)	44	立田 裕昌	"(総務)	45	牧野 嵩人
"(総務)	29	山下 展成	"(HP)	29	岡田 康裕	"(総務)	44	三木 綾子	"(広報)	46	川口 澄恵
"(研シ)	35	中村 亮太	"(研シ)	29	浜田賢太郎	"(総務)	44	柴田 理加	顧問(理事長)		三木 一正
書記(総務)	44	山田 祥五	"(総務)	30	上新 真弘	"(総務)	45	三浦 学登	"(校長)	11	宮崎陽太郎
会計監査(広報)	23	三木 健史	"(研シ)	31	後藤 大悟	"(総務)	45	向原 沙紀	"(教頭)		高見 繁統
"(研シ)	35	安田 孝弘	"(総務)	31	酒井 雅史	"(総務)	46	藤本 美希	"(最高参事)		斎藤 興哉
常任幹事(総務)	1	芝本真須美	"(総務)	31	木下 智晴	"(総務)	46	宮脇 規壽	"(特別参事)	2	川副 義文
"(総務)	1	正井 和野	"(総務)	31	村山 稔	"(総務)	47	戎 直哉	"(元会長)	1	遠山 寛
"(研シ)	4	森崎 晴知	"(総務)	32	酒井 勇人	"(総務)	47	中谷 英巴	"(元会長)	1	黒坂 康夫
"(総務)	5	塩崎 育男	"(総務)	32	小澤有紀子	"(総務)	48	井上 千華	"(元会長)	1	黒川 芳一
"(研シ)	5	橋本 義仁	"(総務)	33	藤井 拓郎	"(総務)	48	建石 真一	"(前会長)	3	沼田 好道

(平成29年7月8日現在)

平成28年度 収支決算報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

単位/円

収入の部	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	10,206,368	10,206,368	0
会費収入	2,580,000	2,610,000	△30,000
終身会費	2,580,000	2,610,000	△30,000
臨時会費	0	0	0
総会費	0	0	0
会費外収入	65,000	5,549	59,451
名簿収入	10,000	3,800	6,200
広告収入	0	0	0
利息収入	5,000	1,749	3,251
雑収入	0	0	0
寄付金	50,000	0	50,000
総会積立金繰入収入	0	0	0
合計	12,851,368	12,821,917	29,451

平成28年度 会務報告

年月日	内容	年月日	内容
28.4.30	加古川白陵高校同窓会	28.11.30	役員会(忘年会)
28.6.22	理事会	29.2.11	第52期卒業式
28.6.25	東京白陵高校同窓会	29.2.11	姫路白陵高校同窓会
28.7.9	定例役員会	29.2.18	三会合同正副会長会
28.8.26	臨時役員会	29.2.19	陵医会総会
28.8.27	姫路白陵高校同窓会	29.2.24	理事会
28.10.1	会報第36号発行		

支出の部	予算額	決算額	差異
事務費支出	125,000	59,573	65,427
消耗品費	20,000	3,952	16,048
印刷費	20,000	0	20,000
通信費	60,000	46,851	13,149
支払手数料	20,000	8,770	11,230
雑費	5,000	0	5,000
会議費支出	650,000	534,170	115,830
理事会費	250,000	197,910	52,090
役員会費	350,000	336,260	13,740
委員会費	50,000	0	50,000
事業費支出	1,600,000	1,546,886	53,114
総会費	0	0	0
名簿発行費	0	0	0
会報発行費	950,000	954,656	△4,656
ホームページ維持費	100,000	99,792	208
卒業記念品費	380,000	327,974	52,026
慶弔費	170,000	164,464	5,536
備品費支出	0	0	0
OB会活動助成金	270,000	240,000	30,000
渉外費支出	110,000	60,000	50,000
予備費支出	400,000	0	400,000
寄付金	0	0	0
小計	3,155,000	2,440,629	714,371
総会積立金	200,000	200,000	0
次年度繰越金	9,496,368	10,181,288	△684,920
合計	12,851,368	12,821,917	29,451

白陵会News

第22回 りょうゆう会ゴルフコンペのご案内

第22回「りょうゆう会ゴルフコンペ」のご案内をさせていただきます。今回は3年ぶりの開催ですので、同期生等お誘い合わせ頂き、多数のご参加をお待ちしております。

日時：平成29年11月3日(金・祝) 9:30集合

場所：相生カントリークラブ

申込み：吉田達哉(10期) FAX.079-237-7272

矢野善人(13期) FAX.079-239-0111

白陵会ホームページにも詳細を掲載しております。

〓市町長選挙〓
五月二十八日の千葉市長選挙で、熊谷俊人氏(三十一期生)が三選、七月二日の上郡町長選挙で遠山寛氏(一期生)が再選されました。ますますのご活躍を祈念します。

〓藤本智朗君(高三)〓
福島県郡山総合体育館で行われた第六十六回全国高等学校総合体育大会柔道競技男子八十一kg級で第五位に入賞しました。一九八九年男子個人六十kg級第三位の榎本茂樹君(二十五期生)、二〇〇二年男子個人八十一kg級準優勝の江里口光太郎君(三十八期生)に続く結果となりました。

白陵会物故者

奥野昌三氏(十二期生)
平成二十八年十一月逝去

田中邦彦氏(十三期生)
平成二十九年二月逝去

吉岡雅浩氏(五十期生)
平成二十九年二月逝去

名嶋克己氏(四期生)
平成二十九年九月逝去

心よりご冥福をお祈りします。

転退職教員紹介

大内義博先生(中学教頭・社会)
昭和四十六年四月～平成二十九年三月
四十八年間

白陵の草創期から勤務され、学校の礎を築けることに尽力され、平成十六年から中学位長、平成二十六年からは中学教頭として、教職員の前頭に立って、学校の発展に尽力されました。

清原有紀子職員(事務)

平成二十八年三月～平成二十九年三月
三年間

編集後記

二〇一七年、一月アメリカ新政権成立、六月フランス新政権設立、国際社会に大きな変化が続き、また国内では将棋界で六月に十四歳の藤井聡太四段が歴代新記録となる二十九連勝を達成、八月には卓球界でも十四歳の張本智和選手がWTT初優勝、そして九月には二十一歳の桐生祥秀選手が男子一〇〇mで日本人初の九秒台を達成、いろいろなことが目まぐるしく動いています。この一年は後世どのように評価される一年となるのでしょうか？母校「白陵高等学校」同窓会「白陵会」において「転換と変化そして進化」の瞬間が訪れつつあるのかも知れません。様々な分野で活躍中の同窓会員の皆様の情報をお知らせください。同窓会員の活躍を同窓会HP・会報を通じてアーカイブしましょう。